

日本にいる動物はどこから来たの？



写真の中で日本列島だけに生活する動物はどれ？

動物の移動

日本列島は、周囲を海に囲まれた島国です。そして、その中で多くの動物が生活しています。でも、周囲を海に囲まれた日本列島へ、動物たちはどのようにしてやってきたのでしょうか？

日本列島には、固有種が数多くいます。固有種とは、ある地域にしかすんでいない生物種をいいます。（生物の「種」とはなんだろう？調べてみよう。）

日本列島の動物には、固有種が多いという特徴があるとともに、ユーラシア大陸に、同じ種または近縁の種がいることがわかっています。つまり日本列島の動物は、ユーラシア大陸から日本列島にわ

たってきたもので、一部の動物は日本列島で独自に進化したのです。

これらの動物たちは、泳いで日本列島に来たわけではなく、陸伝いに日本列島に渡ってきたのです。

日本列島とユーラシア大陸の間は、地球の歴史の中で最近まで、何度かつながったことがありました。それは日本列島が動いたわけではなく、気候の変動で海面が低下して、ユーラシア大陸との間の浅い海峡が陸地となったのです。このような状況を陸橋といい、日本列島とユーラシア大陸の間では、何箇所かできていたことがわかっています。そして多くの動物たちが、この陸橋を渡って日本列島にやってきたのです。

表の写真

カワネズミ、ヒミズ、ニホンザル、ニホンノウサギ、ニホンリス、エゾシマリス、ニホンモモンガ、ムササビ、ヤマネ、アカネズミ、ヒグマ、ツキノワグマ、タヌキ、アカギツネ、テン、ニホンイタチ、アナグマ、イノシシ、ニホンジカ、ニホンカモシカ

北海道 / 本州・四国・九州 / 琉球列島で生物の違いを比べてみよう。

日本列島とユーラシア大陸のどちらにもいる動物をどれだけ知っているかな？

現在、日本列島とユーラシア大陸の間には海があって隔てられています。日本列島とユーラシア大陸の間には、接近しているところがあります。北から宗谷海峡、対馬海峡、与那国島と台湾の間です。水深は宗谷海峡は約 55 m、対馬海峡は約 130 m と浅く、与那国島と台湾の間では 500m 以上あります。四方を海に囲まれた日本列島ですが、かつてこれらの海峡部で大陸との間に陸橋ができたことがわかっています。例えば今から約 2 万年前には、現在よりも海面が 120 m 低かったといわれています。120 m も海面が低いと、宗谷海峡は陸地になってしまい、対馬海峡は川のような感じです。このように海面が大きく低下した時期、動物が陸橋を渡ってきたと考えられています。



マンモス（茶色）は北海道まで南下でき、ナウマンゾウ（水色）は北海道まで北上した。

このような現象は、化石で発見される動物を調べることからわかります。マンモスの化石が日本で発見されていることを知っていますか？マンモスの化石のほぼ全部が北海道で発見されています。つまり宗谷海峡が陸橋となったときに、北海道まではマンモスが渡ってきたのです。なぜ北海道までだったかということ、北海道と本州の間の水深 130m 以上の津軽海峡がマンモスの移動をさえぎった、と考えられています。それに対し、ナウマンゾウは本州と北海道のどちらからも発見されています。ナウマンゾウは津軽海峡が陸橋となった時に北海道にわたり、生活していたのでしょう。さらにナウマンゾウの祖先は、対馬海峡や東シナ海が陸橋のようになっていたときに、日本に渡ってきたのでしょう。



参考

池谷仙之・北里洋, 2004. 地球生物学. 東京大学出版会.
河村善也, 1990. 日本列島の哺乳動物相との関係. モンゴロイド.
日本哺乳類学会 編, 1997. レッドデータ 日本の哺乳類. 文一総合出版.
Takahashi, K., Y. Soeda, M. Izoho, K. Aoki, G. Yamada and M. Akamatsu, 2004. A New Specimen of *Paleoloxodon naumanni* from Hokkaido and its Significance. The Quaternary Research.